

# コーポレートガバナンスが求める2つのサステナビリティ ～東証再編・CGC改訂の先にあるもの～

日時 2021年11月18日(木) 19:00～20:30 ※ 後日、録画での配信も実施いたします

参加費 会員:2,000円/一般:3,000円

登録方法 お申し込み方法はメールにてご案内いたします

2022年4月に予定されている東証市場再編においては、プライム市場上場企業に対しては「より高いガバナンス水準」が求められることとなり、これを受けて本年6月にコーポレートガバナンス・コードの改訂案が公表されました。本改訂では、取締役会の機能強化のため取締役の質の強化が求められるとともに、サステナビリティやダイバーシティなど、監督のスコープも拡大します。

その中で、社外取締役の役割と責任の更なる強化と、取締役会のモニタリング機能の継続の点から「ボード・サクセッション」の体制づくりが大きな課題となっています。これら一連の流れは、米国・英国に範をとっていることは知られてはいるものの、米国・英国の現状は知られていないのが実情です。

そこで今回は『ボード・サクセッション』（中央経済社）の著者である山田英司氏を講師にお迎えし、企業のサステナビリティと取締役会そのもののサステナビリティについて考えてみたいと思います。米国、英国のガバナンス構造と比較しつつ、東証再編・コーポレートガバナンス・コード改訂の先にある、日本企業の今後のガバナンス改革の展望と課題について考察して参ります。是非ご参加ください。

※ 当日のライブ配信では、質疑応答の時間を設け、参加者の皆様よりご意見・ご質問を直接お受けいたします。

講師

山田 英司 氏

株式会社日本総合研究所 理事

早稲田大学法学部卒業、University of Wales MBA 修了、EU Business School DBA 修了。建設会社の企画・管理部門を経て現職。現在は、グループ経営、M&A、経営管理などのリサーチ・コンサルティング業務を手掛ける。また、ベンチャー企業のCFO・監査役、大手機械メーカーの社外取締役を歴任するとともに、東京都や公正取引委員会の審議委員もつとめる。著書として『ボード・サクセッション』（中央経済社2021）、『グループガバナンスの実践と強化』（税務経理協会2020）など。



## 今後の勉強会予定

第128回 12月15日(水) 【題目】 取締役会の実効性評価の現状と今後(仮題)  
【講師】 小林昭夫氏(PwC あらた有限責任監査法人 パートナー)

主催



一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会

ウェブサイト: [www.icgj.org](http://www.icgj.org) | Mail: [seminar@icgj.org](mailto:seminar@icgj.org) | Tel: 03-3539-3208

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-18-6 クロスオフィス内幸町 3F